



内閣サイバーセキュリティセンター
National center of Incident readiness and
Strategy for Cybersecurity

2014年度 セブター訓練について

2015年3月26日

内閣官房 内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)

セプター訓練（第9回）のまとめ

訓練の概要

セプター訓練は、『重要インフラの情報セキュリティ対策に係る第3次行動計画』において、内閣官房（NISC）が、定期的及びセプターの求めに応じ、セプターの情報疎通機能の確認等の機会を提供するものとして位置付け。

また、各重要インフラ分野内における『縦』の情報共有体制の確認・強化を図るセプター訓練と、重要インフラ分野間の『横』の情報共有体制の確認・強化を図る分野横断的演習とが相互に連携・補完することで、『縦』方向と『横』方向双方の情報共有体制を強化し、官民連携による重要インフラ防護の推進を図るもの。

①目的

- (1) 関係主体間の情報疎通機能確認を通じた情報共有体制の実効性検証と、重要インフラ防護能力の維持・向上
- (2) 各主体、各経路における既存の手順等の改善、解決すべき課題の抽出

②参加者

情報通信分野（電気通信、放送、ケーブルテレビ）、金融分野（銀行等、生命保険、証券）、航空分野、鉄道分野、電力分野、ガス分野、医療分野、水道分野、物流分野、クレジット分野の計14セプター

参加事業者等（参加事業者等数：1,644団体）（訓練参加の事業者等は各セプターにおいて選定）

金融庁、総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、NISC

③実施期間

2014年8月から10月まで（実施日時はセプターごとに決定）

④実施内容

- (1) 電子メールにて、NISCから所管省庁経由で各セプターに情報提供を発出。
- (2) 各セプターは、参加事業者等に対し情報提供及び参加事業者等の受信確認を実施し、所管省庁経由でNISCへ報告。
（セプターの希望に応じ実施方法のカスタマイズ（時間抜き打ち、模擬情報の具体化）を実施。）
- (3) 訓練実施後、得られた気付き等を調査票（アンケート）に記載し提出。

セプター訓練（第9回）のアンケート結果（1 / 4）

1. 情報共有体制の整備・維持に関して（1 / 2）

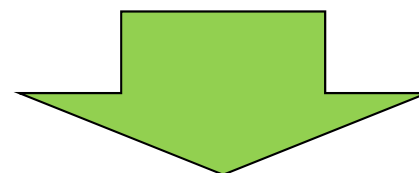
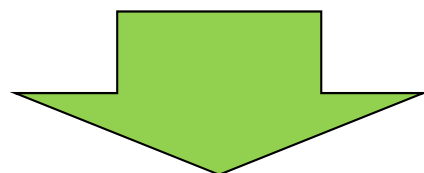
（1）情報伝達を確実に実施するための工夫（連絡先の整備・維持）に関する気付き等

【セプター独自の取組・前回の訓練からの改善点】

- 年1回は、登録されている連絡先へメールの到達確認を実施し、連絡先を整備している。
- 連絡先未届けの事業者がないことを事前に確認し、また、人事異動等に伴う変更届出を行っていない事業者が存在した際には、変更手続き等の依頼を実施している。
- メールが不達にならないように、日頃からメールアドレスの整備に努めている。

【今回の訓練を踏まえた今後の改善点、意見、感想等】

- 人事異動時等に連絡先の変更を速やかに申請するよう、参加事業者への指導を強化した。
- 定期的実施することで、社内連絡先を最新に維持できるメリットがある。
- 「担当者や連絡先の変更に伴う変更手続き（変更届出書の提出）の周知徹底」の注意喚起を実施した。



分野・事業者によって、連絡先を更新するタイミング（①年1回の訓練時、②人事異動時、③担当者・連絡先変更時）が違っている。

情報伝達を確実に実施するためには、連絡先の更新は担当者・連絡先が変更したタイミングにより、速やかに実施したほうが望ましいことから、そのための各分野・事業者内における仕組み・ルール作りが検討されることを期待します。

セプター訓練（第9回）のアンケート結果（2/4）

1. 情報共有体制の整備・維持に関して（2/2）

(2) 情報伝達を確実に実施するための工夫 (連携ルートの複線化・代替手段の考慮)に 関する気付き等

【セプター独自の取組・前回の訓練からの改善点】

- 情報連携ルートの更なる複線化を目的に、要望がある事業者については、通常の社内メールアドレスに加え、携帯のメールアドレス等を複数登録できるようにした。

【今回の訓練を踏まえた今後の改善点、意見、感想等】

- 情報提供に使用しているファイル配信ツールの不具合発生を踏まえ、今後、情報提供ルート(手段)の代替手段を明確化するとともに、当該手段についてセプター構成員に十分な周知を行う。
- 担当者不在時等に備えた情報受信者の複数登録(担当者の追加や関連部署への転送等)の対応等の注意喚起を実施した。



情報伝達を確実に実施するためには、担当者不在時のための情報連携ルートの複線化は重要であるとともに、情報伝達手段としても、不測の事態に陥った場合の手段の代替を考慮したほうが望ましいことから、未整備の分野・事業者においては検討されることを期待します。

(3) 情報伝達を迅速に実施するための工夫 (メーリングリスト等の活用)に関する 気付き等

【セプター独自の取組・前回の訓練からの改善点】

- セキュリティ関係者の情報共有を迅速に行うため、メーリングリストを活用している。
- メールでの情報発信をスムーズに行うために、一斉送信用のアドレスリストを用意している。
- NISC等から提供される脅威情報等を情報共有する掲示板をイントラネットに設置し、受信した情報に対処すべき内容を追記し、当該掲示板を通じて社内関係者へ情報提供を実施している。



情報伝達を迅速に実施するためには、メーリングリストや掲示板などの情報伝達システムを活用することは有効であることから、構成員の多い分野・事業者においては検討されることを期待します。

2. より実践に近い状況の訓練の実施に関して

(1) 突発的な事態への対応の訓練（日時の抜き打ち）に関する気付き等

【セプター独自の取組・前回の訓練からの改善点】

- 各事業者に対し、実施する期間(数日間)のみを伝え、具体的な訓練日時を通知せず実施している。

【今回の訓練を踏まえた今後の改善点、意見、感想等】

- 訓練時間等を決めずに行うことで問題点などが明らかになるのではないか。

(2) 事業者を起点とした事態への対応の訓練に関する気付き等

【今回の訓練を踏まえた今後の改善点、意見、感想等】

- 事前の周知は行っているが、メールは受信しているも受信確認の連絡が来なかった例が散見された。事業者からの情報発信に慣れてもらうため、事業者が起点となるような訓練ができないか。

(3) 模擬情報の具体的な記載に関する気付き等

【今回の訓練を踏まえた今後の改善点、意見、感想等】

- 模擬情報を具体的な内容とすることで、自社内での訓練に展開しやすくなるのではないか。
- 模擬情報について、具体的な内容を記載していただくと、その情報に即した社内対応ができ、より現実味のある訓練になるので、次回の訓練では改善していただきたい。

より実践に近い訓練を実施することにより、情報共有体制の新たな気付きを得ることは重要である。
各分野・事業者の実情を踏まえつつ、実践的な訓練内容を取り入れるための検討が行われ、段階的に実態に即した情報共有訓練が実施されることを期待します。

3. その他

緊急性と秘匿情報との関係に関する気付き等

【今回の訓練を踏まえた今後の改善点、意見、感想等】

- 訓練において、情報連携を添付文書ではなく、メール本文に記載する方法でも連携いただくなど、緊急度が高い情報は、メール本文による情報連携が有効であるので検討いただきたい。
- 情報セキュリティ上、パスワード付きのメール送信が原則であろうが、緊急かつ広範に情報伝達が必要な場合、情報の秘匿性確保よりも容易に内容確認出来ることを優先し、パスワードを設定せずに情報提供を行っても良いのではないか。

«NISCコメント»

情報共有で取り扱われる情報は機微情報を含むことから、原則パスワードを付した電子メールにて情報提供を行う事により、外部への情報漏えいを防止することが必要である。

一方、機密性を確保することよりも緊急性を優先させるべき事態が発生した場合には、原則によらず電話等の他の情報連絡手段を含め、最適な手法等により情報提供を実施することとしたい。

◆セプター訓練の総括

- ① 訓練の結果、課題の抽出ができたセプターや、新たな気付きを得たセプターもあり、セプター訓練の有用性が改めて確認された。
- ② 重要インフラ防護能力の維持・向上のため、定期的に訓練を実施することは重要であり、NISCは引き続きその機会を提供。

◆今後のセプター訓練の方向性とNISCからの要望

今年度のセプター訓練の結果を踏まえ、IT障害対応を念頭においたより実態に即した情報共有訓練となるよう、次回のセプター訓練の実施前までに、訓練方法の多様化や実施形態の見直し（例：カスタマイズ項目の充実）等の所要の検討を進めていく。

また、第3次行動計画において、NISCは「定期的及びセプターの求めに応じて機会を提供」することとしており、具体的な訓練内容を検討する際は、各分野の情報共有体制等の諸事情を踏まえつつ、今回のセプター訓練で得られた気付き事項の反映の確認、かつ検証できるような効果的な訓練内容となるよう、各セプターからも積極的な提案を期待する。